

# 観光まちづくりかわら版

富士山と湖と高原のまち—日本の湖水地方—

富士河口湖町の観光に関する興味深い情報やまちづくり情報などを紹介するかわら版です。

## 河口湖ハーブ館が新しい取り組みを行っています

大池公園に隣接した河口湖ハーブ館は、河口湖の新しい観光魅力を創出する目的で、今からちょうど20年前の平成2年7月にオープンしました。旧河口湖町では、当時の竹下内閣が行った「ふるさと創生事業」を活用して「富士と緑豊かな文化の里づくり事業」に取り組み、富士山グランプリ展、香りのある里づくり事業、大石紘伝承事業の3事業を実施しました。河口湖ハーブ館は、このなかの「香りのある里づくり事業」の拠点施設として整備されました。

当時はまだ日本ではハーブ自体が珍しい存在で、河口湖ハーブ館は大いに賑わいました。しかし次第に全国各地にハーブをテーマとした施設が増え、またハーブが日本人の暮らしの中で一般的なものとなっていくに従い、ハーブ館の入館者数は減少していきました。

しかし今や河口湖を代表するイメージとして定着しているのはラベンダーをはじめとしたハーブであり、ハーブ文化を発信する拠点としての河口湖ハーブ館の役割は大きなものがあります。そこで、河口湖ハーブ館の魅力を再生するための様々な新しい取り組みを行っています。

そのひとつが「ハーブ文化定着促進事業」です。この事業は、ハーブ文化が地域にさらに根を下ろすことを目的として、ハーブの愛好者が集うなかで、新たなハーブ文化の創造や観光振興を図るものです。現在、およそ1ヶ月に1回のペースでハーブ愛好者の知的好奇心を満足させるような中身の濃い体験教室を開催しており、ドライフラワーを使ったリースづくりをはじめ、ガーデニング、フレッシュハーブを使ったハーブティー、ハーブ染め、料理教室など、様々な角度からハーブを楽しむことを追求しています。このような活動を通じて、教室に通う地元の方々による「ハーブ同好会」という会も誕生しました。同好会の皆さんは今年のハーブフェスティバルの八木崎公園会場に数多くの寄席植え作品を展示していただき、会場を大いに盛り上げてくれました。

もうひとつの取り組みは、7月24日にオープンしたばかりの「カステラ工房」です。河口湖の新しい名物になるように、手作りにこだわったカステラを製造・販売します。中でも卵や蜂蜜といった地元素材にこだわった「富士山麓かすてら」は上品な甘みのある逸品です。

ハーブ館に足を運んだことがある方もない方も、ぜひ一度足をお運びいただき、ハーブ館の取り組みを応援してください。

## 今年は「もろこし祭り」をJA北富士河口湖物産館+道の駅かつやまで同時開催！

ここ数年、河口地区のJA北富士河口湖物産館・農の駅でお盆の時期に行われている「もろこし祭り」が、今年は道の駅かつやまでも同時開催されます。様々な夏野菜が採れるこの時期に、地元産の野菜が2会場に勢ぞろいします。この機会に採れたて新鮮な地元野菜をぜひお買い求めください。

■開催日時：平成22年8月12日(木)～15日(日) 10:00～

■開催場所：JA北富士河口湖物産館「農の駅」、及び道の駅かつやま

## 観光まちづくり企画提案事業の企画提案公募に10件の応募がありました

広報6月号で公募した、住民の皆様自身の手による観光まちづくり活動を支援するための「観光まちづくり企画提案事業」の応募が7月15日で締め切れ、最終的に5団体から10件のプロジェクト申請がありました。本年度初めて実施する事業となりますが、10件もの応募をいただき、住民の皆様の観光まちづくりへの熱い思いを感じ取ることができました。ご応募くださった皆様、誠にありがとうございました。

ご応募いただいた企画提案については7月中に審査を終え、8月には支援実施することになった事業が動き出す予定です。実施事業の進捗状況や実施の様子についてはまた後日ご報告いたします。